



プロ野球選手会から学ぶこと

第44期中央本部労働学校で、プロ野球選手会の松原徹事務局長から講演がありましたので、講演内容及び感想についてお伝えします。

松原事務局長はロッテオリオンズの球団職員（1軍マネージャー等）の後、プロ野球選手会事務局で活躍をされています。そもそも労働組合としてのプロ野球選手会は1986年に結成されました。プロ野球選手は統一契約書により、球団に選手の保有権があり、FA制度のなかった当時は出場機会を求めて移籍するということができず、選手には辞める（引退する）権利しか認められていませんでした。また、ドラフト会議により入団する球団選択の自由も認められず、選手的意思是全くと言って良いほど尊重されることはありませんでした（辞めるという意思表示しか許されなかった）

そのような状況で、労働組合日本プロ野球選手会が結成され、初代会長には読売ジャイアンツの中畑清が就任しました。中畑は選手が球場で安全に思い切ったプレーができるよう取り組みをしました。例えばフェンスにラバーカバーを設置することや人工芝による弊害を改善することにより、自分たちだけではなく次の世代のためにもなる活動に取り組んでいます。

プロ野球選手会には球団登録選手全員が加入しましたが、ヤクルトと西武では組合つぶし工作がされ、ヤクルトの選手が全員脱退ということが起こりました。それに対し、1塁手の中畑が試合中も説得を続け（ヒットで出塁した選手に「戻って来い」と言い続けた）、ヤクルトの選手であった尾花（現横浜監督）が立ち上がり、

再加入したというエピソードもありました。中畑が会長を努めた後、原辰徳は選手の年金制度の改革を、岡田彰布はFA制度の導入を、正田耕三は最低年俸の引き上げをしてきました。岡田はFA制度導入により「選手の年俸を上げた主犯」として阪神を自由契約とされましたが、オリックスの監督であった故仰木監督が助け、移籍をしたという経過もありました（仰木監督は、岡田だけではなく後のプロ野球再編問題で当時のオリックス選手会長であった三輪も助けたとのことで、本当に助けられたと涙ながらに話をしていました）

そのほか、野茂英雄がメジャーに行く際、ものすごい孤独感を感じ「選手を一人にしてはならない」と感じたこと、プロアマ問題（プロ野球とアマチュア野球の交流制限）に関連し「指導できないなら思いを伝えよう」と小冊子を作成し、学校に配布した活動などについて話がされました。

2004年の近鉄とオリックスの合併問題に端を発したプロ野球再編問題では「選手は移籍できるが裏方さんはどうなるのか」という心配が発端でした。オーナーの利益目的の合併により、パ・リーグが6チームから5チーム、第2の合併により4チームになることで2リーグ制が維持できなくなり、オールスターや日本シリーズがなくなることは、ファンの楽しみがなくなるだけではなく、選手の年金やNPBの運営へも影響することから選手会は反対を続けました。最終的には6チーム維持としながらも新規参入チームが来期「から」と「以降」により対立、当時の選手会長であった古田が泣きながら訴えたものの、交渉は決裂し、2004年9月18日か

連合北海道上川地域協議会「平和のつどい」～旭川に鳥越俊太郎が来る！！～

平和と民主主義、冤罪事件など社会問題を鋭く追究している「鳥越俊太郎」さんを講師に招き、東日本大震災の今後の対応などこれからの課題についての講演会です。全席指定ですので、参加希望の方は書記局までご連絡を。（7月12日まで）座席には限りがあります。
とき 2011年7月24日（日）13：30～
ところ 旭川市民文化会館大ホール 参加費 無料

らのストライキへと突入しました。また、今年の開幕問題ではパ・リーグは開幕延期をすぐに決めたのにセ・リーグは開幕を強行しようとし、選手会が反発、新井会長が文部科学省に呼ばれ真摯な態度で状況を説明するなどの結果、ナイター自粛通知が発出され、セ・パ同時開幕となったとのことです。

プロ野球選手会の話聞いて感じたことは、遠い存在に思っていたプロ野球選手も同じ労働者であること、プロ野球を良くしたい、ファンに楽しんでもらえるようにしたいという気持ちは私たち自治体で働く職員と何ら変わらないということです。一人ひとりでは弱い存在であっても、選手会に結集することで大きな力となり、様々な改革がされています。プロ野球選手は毎年それぞれの交渉で年俸が決まり、さらには1軍登録される選手はわずかであることから、究極の人事評価制度が導入されているのになぜ一丸となっているのか。それは、みんな野球が大好きで野球の価値を高める取り組みをしてきているからではないかと考えます。今シーズン終了は開幕延期により11月まで続きます。選手にとってリスクの高いWBCに参加するのも、ファンのためであり自分たちのためでもあるのです。

プロ野球選手会も労働組合であり、テレビで見る選手たちは全員が組合員です。自分と何ら変わらないと思うと嬉しくなると同時に、労働組合は真剣に働く組合員のため、市民のために職場環境の改善や制度政策要求をしていくことが必要であると改めて感じた講演でした。

書記長 もりかわ